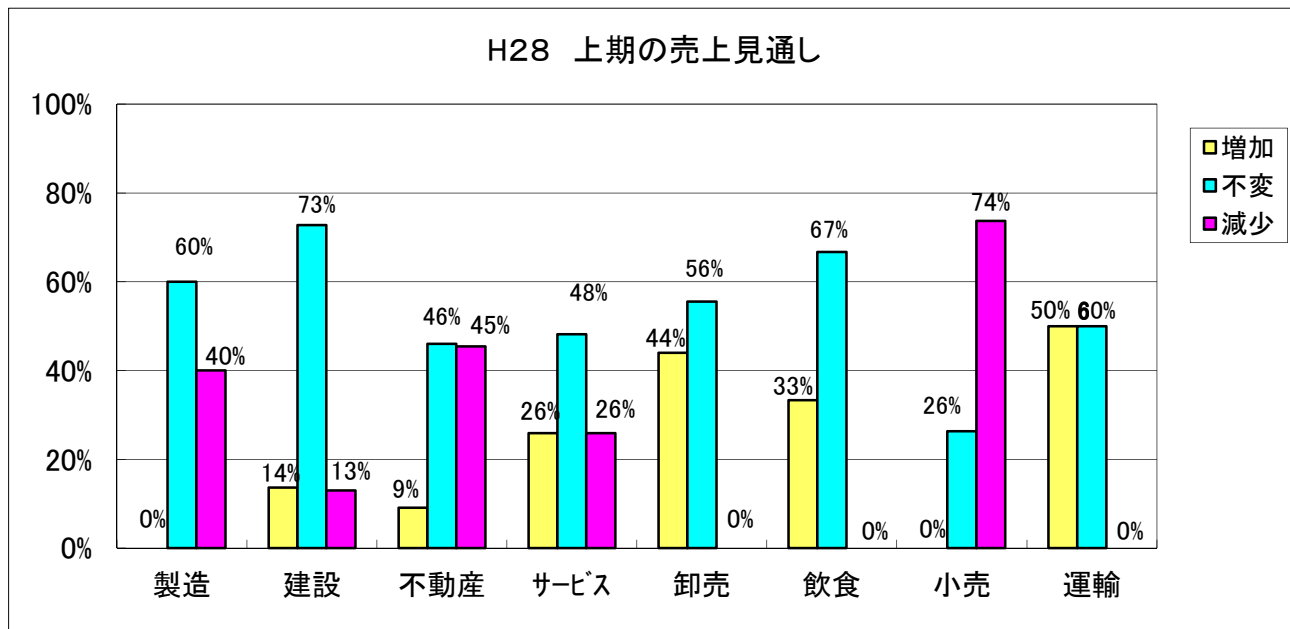


調査2 平成27年7月～12月を水準とした平成28年1月～6月の先行き見通しについて調査した。調査項目は調査1と同じ項目である。⑤業界の景気動向についてはすでに5～6ページで表示してあるのでここでは省略する。

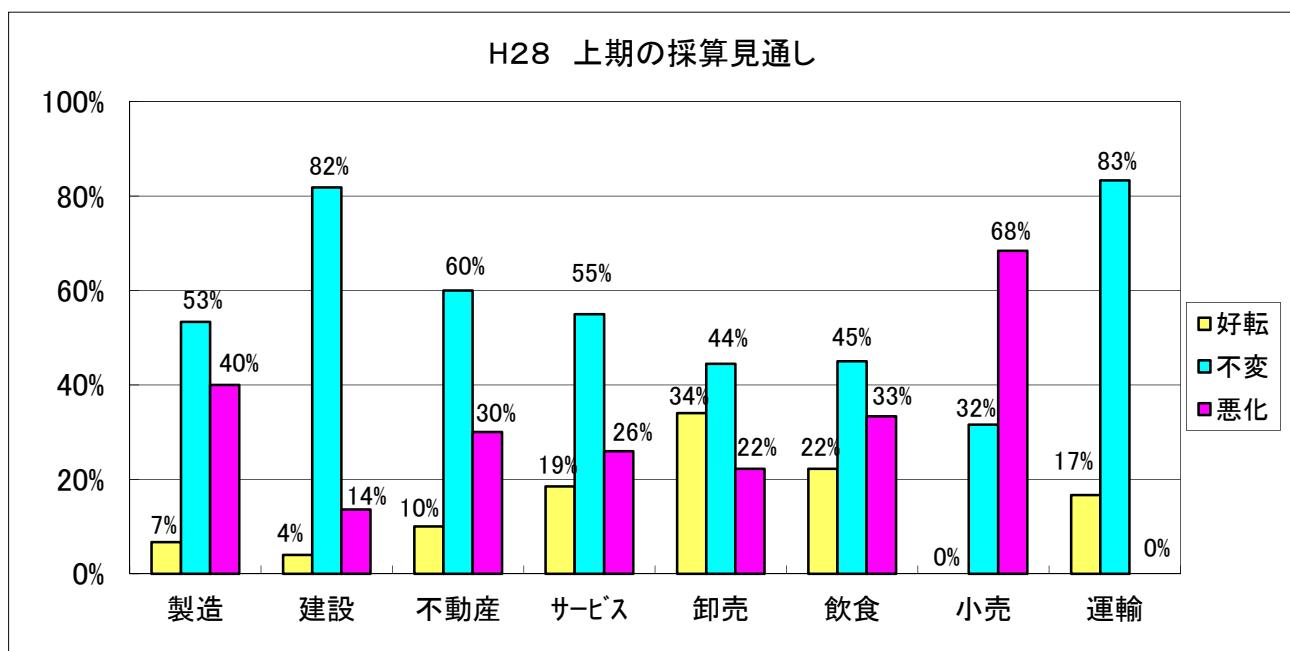
①売上見通し

全体で見ると「増加」22%（前回32%）、「減少」25%（前回26%）と厳しい見通しとなっている。業種別で見ると「増加」する見通しが多かった業種は、卸売業（44%）、運輸業（40%）。一方、「減少」する見通しなのが小売業（74%）であった。この結果は前回の結果と比べると、卸売業が改善され、不動産業・製造業が悪化傾向にある。



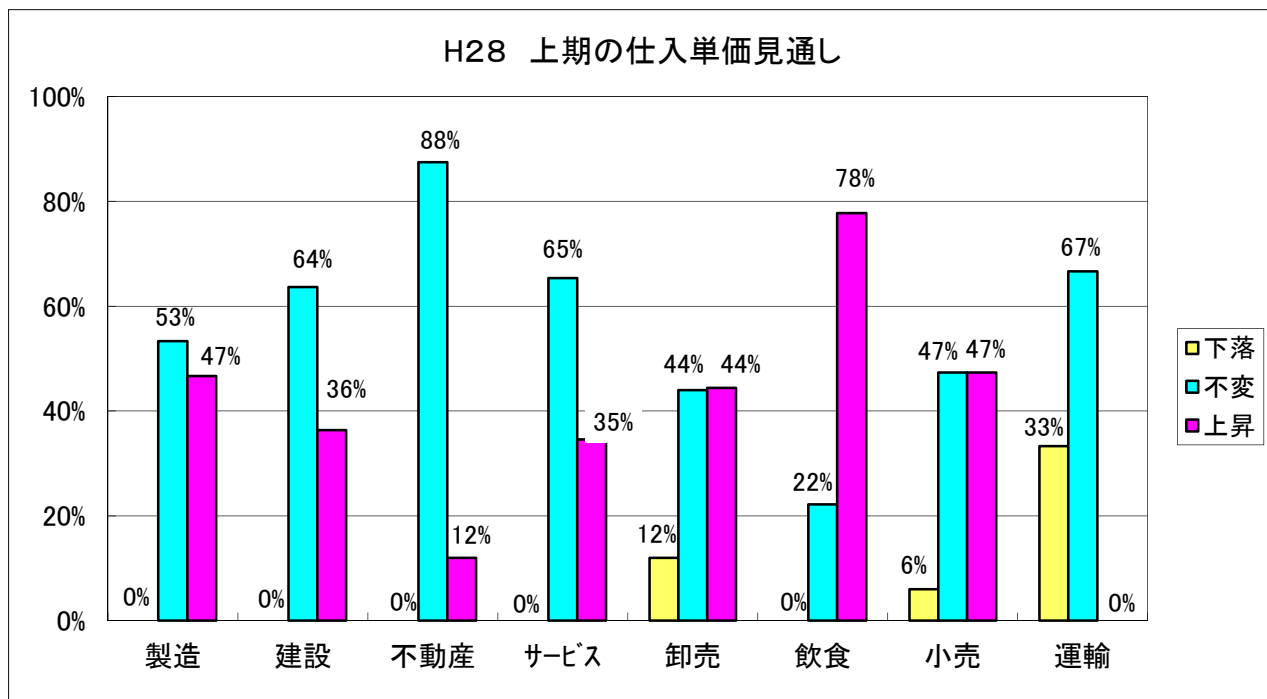
②採算見通し

全体的にみると、「好転」が14%（前回26%）、「不変」が57%（前回48%）、「悪化」が29%（前回26%）となった。業種では、卸売業の「好転」（34%）がもっとも多かった。「悪化」の見通しが高いのが小売業（68%）であった。



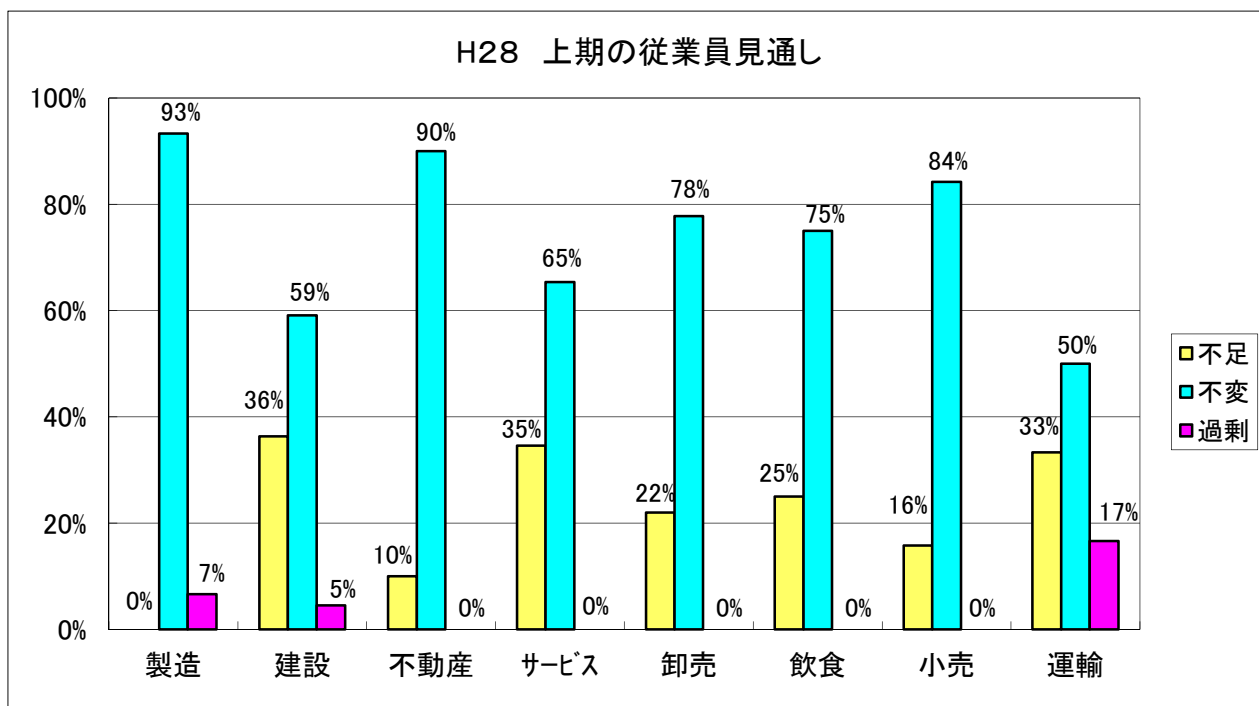
③仕入単価の見通し

仕入単価については、飲食業78%（前回73%）がもっとも多く「上昇」の回答が多かった。一方、「下落」の回答が多かったのが運輸業33%（前回0%）であった。



④従業員の見通し

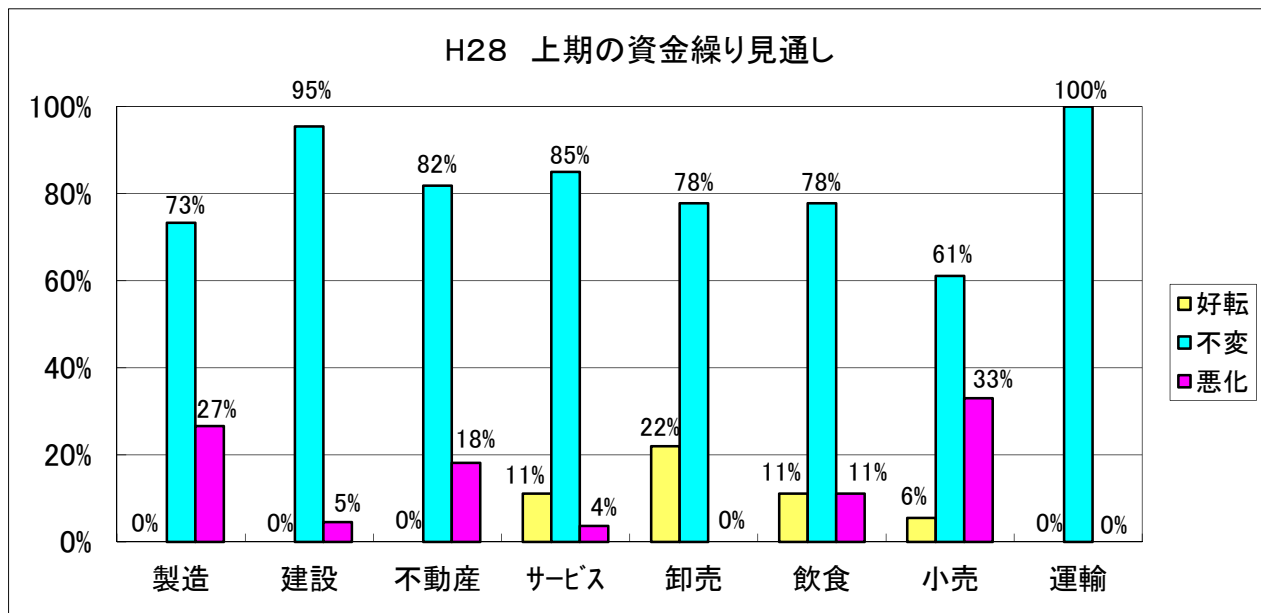
「不足」との見通しの回答が多かったのは、建設業(36%)、サービス業(35%)、運輸業(33%)であった。前回調査と比べると製造業以外の業種で「不足」の見通しがみられる。



⑤業界の景気動向見通しについて
P5～6を参照。

⑥資金繰りの見通し

資金繰りの見通しで「悪化」が多かったのが小売業(33%)で次に製造業(27%)が続いている。一方、「好転」の見通しが多いのが卸売業(22%)であった。



⑦金融機関の融資状況見通し

全体的には「不変」(52%)が多く、続いて「融資無し」(22%)、「緩やか」(16%)、「厳しい」(10%)となっている。前回の調査結果とほぼ同様で融資状況については大きな変化は見られなかった。

